

有明工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	体育 I
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	創造工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	最新スポ ーツルール					
担当教員	井上 仁志,野口 欣照					
到達目標						
1.集団行動のおもな行動様式を身につけ、指示に従って行動することがで ける。 2.体力・運動能力の現状を把握することがで ける。 3.水泳の歴史とルールについて理解し、クロール、平泳ぎの 基本技術を把握することがで ける 4.ハ ーホ ールの歴史とルールについて理解し、互いに協力し、ゲ ームや審判を行うこと か で ける。 5.安全に留意して行動で けること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	指示に従って、機敏・ 的確に行動 すること か で ける。		指示に従って行動す ることが で ける。		指示に従って行動す ることが で きない。	
評価項目2	自身の体力・運動能力 の現状を把握し、高い 体力・運動能力を発揮 することがで ける。		自身の体力・運動能 力の現状を把握 する ことがで ける。		自身の体力・運動能力 の現状を把握 するこ とか で きない。	
評価項目3	クロール、平泳ぎ を用 いて速く 泳ぐ ことがで ける。		クロール、平泳ぎ の 基本技術を 把握する ことがで ける。		クロール、平泳ぎ の基 本技術を 把握する ことがで きない。	
評価項目4	互いに協力し、フ レイヤーとして 適切にゲ ームを実践し、ハント シグ ナルを用いた確に主審 も行うことがで ける。		互いに協力し、フ レイヤーとして ゲ ームを実践したり、副審 を 行うことがで ける。		互いに協力し、ゲ ーム や審判を 行うことがで きない。	
評価項目5	安全に留意し、周囲に 率先して行 動で ける。		安全に留意して周り と共に行動で ける。		安全に留意して行動 で きない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-1						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜び の 実感、運動に必要なルールや技能の習得及び 体力の向上を 図る。主体的に運動に取り組む姿勢や、生涯を通し て運動に親しむ態度を育てる。					
授業の進め方・方法	実技中心に進める					
注意点	新体力テスト 10%、ルールの理解度 20%、実技試験 50%、平常点 20%で 総合的に評価する。「体育」は服装等を 準備し、参加して初めて「出席」扱いとなる為、欠席や見学、服装忘れは出席していないと同等の評価となる。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラハ ス説明 集団行動		シラハ スの確認と集団行動の主な行動様式を身 につ けることがで ける。	
		2週	集団行動		集団の約束や決まりを守って行動で ける。	
		3週	集団行動		指揮者の指示に従って行動で ける。	
		4週	新体力テスト		体力、運動能力の現状を把握することがで ける。	
		5週	新体力テスト		体力、運動能力の現状を把握することがで ける。	
		6週	新体力テスト		体力、運動能力の現状を把握することがで ける。	
		7週	水泳		水泳の歴史、おもなルールについて理解し、水に なれ ることがで ける。	
		8週	水泳		クロールのストローク、キック等の基本技術を理 解す ることがで ける。	
	2ndQ	9週	水泳		平泳ぎ のストローク、キック等の基本技術を理解 す ることがで ける。	
		10週	水泳		クロール、平泳ぎ の基本技術を習得することがで ける。	
		11週	水泳		クロール、平泳ぎ の基本技術を習得することがで ける。	
		12週	水泳		クロール、平泳ぎ の基本技術を習得することがで ける。	
		13週	水泳		クロール、平泳ぎ を用いてタイムトライアルを行 う ことがで ける。	
		14週	水泳		クロール、平泳ぎ を用いてタイムトライアルを行 う ことがで ける。	
		15週	水泳		クロール、平泳ぎ を用いてタイムトライアルを行 う ことがで ける。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	ハ ーホ ール		ハ ーホ ールの歴史とルールについて理解する こ とがで ける。	
		2週	ハ ーホ ール		ハ スの基本技術を理解することがで ける。	
		3週	ハ ーホ ール		ハ スの基本技術を理解することがで ける。	

		4週	ハッレーボール	スパイクの基本技術を理解することかてきる。
		5週	ハッレーボール	スパイクの基本技術を理解することかてきる。
		6週	ハッレーボール	サーブ、トスの基本技術を習得することかてきる。
		7週	ハッレーボール	サーブ、トスの基本技術を習得することかてきる。
		8週	ハッレーボール	互いに協力し、ゲームを実践することかてきる。
	4thQ	9週	ハッレーボール	互いに協力し、ゲームを実践することかてきる。 ハントシグナルを使い主審を行うことかてきる。
		10週	ハッレーボール	互いに協力し、ゲームを実践することかてきる。 ハントシグナルを使い主審を行うことかてきる。
		11週	ハッレーボール	互いに協力し、ゲームを実践することかてきる。 ハントシグナルを使い主審を行うことかてきる。
		12週	ハッレーボール	互いに協力し、ゲームを実践することかてきる。 ハントシグナルを使い主審を行うことかてきる。
		13週	ハッレーボール	互いに協力し、ゲームを実践することかてきる。 ハントシグナルを使い主審を行うことかてきる。
		14週	ハッレーボール	互いに協力し、ゲームを実践することかてきる。 ハントシグナルを使い主審を行うことかてきる。
		15週	ハッレーボール	互いに協力し、ゲームを実践することかてきる。 ハントシグナルを使い主審を行うことかてきる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	1	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1	
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	1	
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	1	
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	1	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
			目標の実現に向けて計画ができる。	1	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	20	20	10	100
基礎的能力	50	0	0	20	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0